

令和5年度（2023年度）

宝塚市水道事業会計予算

宝塚市上下水道局



## 目 次

1. 予算編成方針	.....	1
2. 業務の予定量	.....	1
3. 予算の規模	.....	1
4. 予算の詳細	.....	2
5. 主要施策	.....	4
6. 管路等の耐震化の状況	.....	6
7. 主な経営数値	.....	7
8. 職員の内訳	.....	8

## 1. 予算編成方針

水道事業は、人口減少等により収入増が見込めない一方、国内外の社会情勢の変化による物価上昇の影響を受け、これまで以上に無駄のない経営が求められています。しかし、ヒト・モノ・カネの経営資源には限界があるため、いわゆる減量型改革だけでは解決が難しく、これまでの手法や考え方にとらわれない新しい発想による事業展開を図っていく必要があります。これらのことから、令和5年度は、令和3年8月に見直しを行った宝塚市水道事業経営戦略（以下「経営戦略中間見直し」という。）に計上した「管路耐震化（更新）事業」や「配水池加圧所耐震化（更新）事業」を事業の基礎としつつ、デジタル技術等を活用した新しい取組を行います。

## 2. 業務の予定量

(1) 年度末給水人口 230,015人

令和4年度予算数値から「経営戦略中間見直しに計上した令和5年度の年度末給水人口と令和4年度の年度末給水人口の差」を差し引いた値を計上しています。

(人)

	給水人口	増減
令和元年度（決算）	233,933	-
令和2年度（決算）	233,194	△739
令和3年度（決算）	231,929	△1,265
令和4年度（予算）	231,105	△824
令和5年度（予算）	230,015	△1,090

(2) 年間有収水量 23,191,942<sup>m</sup>

経営戦略中間見直しの数値を計上しています。

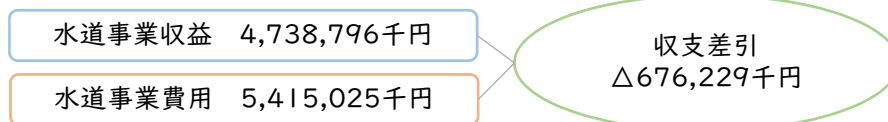
(<sup>m</sup>)

	有収水量	増減
令和元年度（決算）	23,158,533	-
令和2年度（決算）	23,672,643	514,110
令和3年度（決算）	23,342,565	△330,078
令和4年度（予算）	23,317,094	△25,471
令和5年度（予算）	23,191,942	△125,152

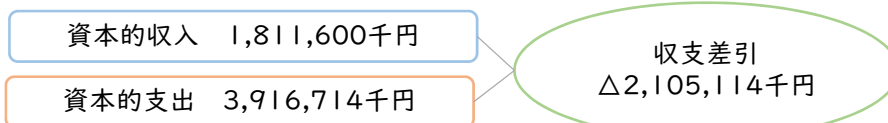
## 3. 予算の規模

令和5年度の支出総額（収益的支出と資本的支出の合計額）は9,331,739千円で、令和4年度の当初予算と比較して734,352千円減少しています。これは、前年度（令和4年度）に新庁舎建設事業を実施したことにより、前年度比較で建設改良費が1,016,672千円減少した一方、動力費の増加等により営業費用が139,094千円増加したことが主な原因です。

(1) 収益的収入及び支出



(2) 資本的収入及び支出



#### 4. 予算の詳細

##### (1) 収益的収入及び支出

(千円)

区分		令和5年度(当初)	令和4年度(当初)	増減	前年比(%)	備考
収          入	1 営業収益	4,054,982	4,112,342	△ 57,360	98.6	
	(給水収益)	( 3,851,161)	( 3,872,456)	( △ 21,295)	( 99.5)	※ 1
	(受託工事収益)	( 20,027)	( 20,435)	( △ 408)	( 98.0)	
	(その他営業収益)	( 183,794)	( 219,451)	( △ 35,657)	( 83.8)	※ 2
	2 営業外収益	682,814	657,109	25,705	103.9	
	(分担金)	( 163,413)	( 178,722)	( △ 15,309)	( 91.4)	
	(受取利息)	( 1,177)	( 1,053)	( 124)	( 111.8)	
	(他会計補助金)	( 28,995)	( 5,150)	( 23,845)	( 563.0)	※ 3
	(長期前受金戻入)	( 461,056)	( 459,822)	( 1,234)	( 100.3)	
	(雑収益)	( 28,173)	( 12,362)	( 15,811)	( 227.9)	※ 4
3 特別利益	1,000	1,000	0	100.0		
(過年度損益修正益)	( 1,000)	( 1,000)	( 0)	( 100.0)		
計	4,738,796	4,770,451	△ 31,655	99.3		
支                      出	1 営業費用	5,066,833	4,927,739	139,094	102.8	
	(人件費)	( 784,651)	( 802,694)	( △ 18,043)	( 97.8)	※ 5
	(受水費)	( 1,383,113)	( 1,380,996)	( 2,117)	( 100.2)	
	(動力費)	( 330,937)	( 268,350)	( 62,587)	( 123.3)	※ 6
	(薬品費)	( 88,096)	( 66,024)	( 22,072)	( 133.4)	※ 7
	(修繕費)	( 349,532)	( 336,826)	( 12,706)	( 103.8)	
	(路面復旧費)	( 5,143)	( 5,503)	( △ 360)	( 93.5)	
	(委託料)	( 593,459)	( 563,508)	( 29,951)	( 105.3)	※ 8
	(減価償却費)	( 1,287,349)	( 1,245,256)	( 42,093)	( 103.4)	
	(その他)	( 244,553)	( 258,582)	( △ 14,029)	( 94.6)	
	2 営業外費用	326,192	315,884	10,308	103.3	
	(支払利息)	( 190,192)	( 179,884)	( 10,308)	( 105.7)	
	(消費税)	( 136,000)	( 136,000)	( 0)	( 100.0)	
	3 特別損失	2,000	4,904	△ 2,904	40.8	
	(過年度損益修正損)	( 2,000)	( 2,500)	( △ 500)	( 80.0)	
	(その他特別損失)	( 0)	( 2,404)	( △ 2,404)	( 皆減)	
	4 予備費	20,000	20,000	0	100.0	
計	5,415,025	5,268,527	146,498	102.8		
収支差引	△ 676,229	△ 498,076	△ 178,153			

※ 1 経営戦略中間見直しの数値を計上。

※ 2 令和4年度は新庁舎の備品整備の負担金22,385千円等があったことにより前年比減少。

※ 3 基礎年金拠出金に係る一般会計繰入金(23,427千円)により前年比増加。

※ 4 新庁舎賃貸料(15,170千円)により前年比増加。

※ 5 退職給付引当金繰入額20,000千円減少により前年比減少。

※ 6 電気料金の高騰により前年比増加。

※ 7 活性炭の単価上昇等により前年比増加。

※ 8 川下川ダム取水導水等関連施設点検業務(16,000千円)等により前年比増加。(詳細は5ページに記載)

## (2) 資本的収入及び支出

(千円)

区分		令和5年度(当初)	令和4年度(当初)	増減	前年比(%)	備考
収 入	1 企業債	1,773,600	2,665,800	△ 892,200	66.5	
	2 国庫補助金	0	13,880	△ 13,880	皆減	
	3 他会計負担金	17,600	16,000	1,600	110.0	
	4 工事負担金	20,400	27,000	△ 6,600	75.6	
	5 貸付金返還金	0	250,000	△ 250,000	皆減	
	計	1,811,600	2,972,680	△ 1,161,080	60.9	
支 出	1 建設改良費	2,194,946	3,211,618	△ 1,016,672	68.3	
	(事務費)	( 103,843)	( 104,610)	( △ 767)	( 99.3)	
	(原水及び浄水施設費)	( 245,966)	( 275,099)	( △ 29,133)	( 89.4)	※9
	(送水及び配水施設費)	( 1,806,814)	( 2,021,649)	( △ 214,835)	( 89.4)	※10
	(営業設備費)	( 38,323)	( 810,260)	( △ 771,937)	( 4.7)	※11
	2 企業債償還金	691,768	755,946	△ 64,178	91.5	
	3 投資	1,000,000	800,000	200,000	125.0	※12
	4 予備費	30,000	30,000	0	100.0	
計	3,916,714	4,797,564	△ 880,850	81.6		
収支差引		△ 2,105,114	△ 1,824,884	△ 280,230		

資本的収支不足額2,105,114千円は損益勘定留保資金等で補填する。

※9 主な内容は以下のとおりです。

苛性ソーダ注入施設電気機械設備更新 55,000千円  
 浄水施設基盤整備強化事業 30,400千円 (詳細は4ページに記載)  
 急速攪拌機施設ボルテミキサ更新 27,500千円  
 薬品注入設備制御機器更新 11,000千円 等

※10 主な内容は以下のとおりです。

管路耐震化(更新)事業 920,000千円 (詳細は4ページに記載)  
 配水池加圧所耐震化(更新)事業 316,900千円 (詳細は4ページに記載)  
 配水池加圧所機械設備等更新事業 420,000千円 (詳細は4ページに記載)  
 配水池統廃合事業(右岸地区) 53,000千円 (詳細は5ページに記載)  
 水道管路劣化予測診断事業 15,185千円 (詳細は5ページに記載) 等

※11 内容は以下のとおりです。

水道メーター購入 38,323千円

※12 内容は以下のとおりです。

定期預金等での資金運用 500,000千円  
 下水道事業への貸付金 500,000千円

## 5. 主要施策

### (1) 施設改良・更新に関する取組

#### ① 管路耐震化（更新）事業（予算額920,000千円）

管路更新・耐震化計画に基づいて、老朽化した管路の更新・耐震化を行います。

工事場所	内容
安倉南4丁目	ダクタイトル鑄鉄管φ150布設工事 施工延長 L=750m
中山桜台6丁目	ダクタイトル鑄鉄管φ150~350布設 工事 施工延長 L=850m
逆瀬台6丁目	ダクタイトル鑄鉄管φ150布設工事 施工延長 L=700m
小林5丁目	ダクタイトル鑄鉄管φ300布設工事 施工延長 L=450m
市内一円	ダクタイトル鑄鉄管φ75~400布設工 事 施工延長 L=2,730m

予算：資本的支出＞建設改良費＞送水及び配水施設費



#### ② 配水池加圧所耐震化（更新）事業（予算額316,900千円）

更新時期を向かえた配水池・加圧所の更新・耐震化を計画的に行います。

工事場所	内容
御殿山4丁目	高台下配水池耐震化工事

予算：資本的支出＞建設改良費＞送水及び配水施設費



#### ③ 配水池加圧所機械設備等更新事業（予算額420,000千円）

阪水系統（阪神水道企業団から受水している配水池・加圧所の系統）の遠方監視設備を整備します。

工事場所	内容
東洋町外	阪水系配水池加圧所遠方監視設備更新工事（新庁舎中央監視室・配水池10カ所、加圧所6カ所）

予算：資本的支出＞建設改良費＞送水及び配水施設費



## (2) 安心安全に関する取組

### ① 浄水施設基盤整備強化事業（予算額30,400千円）

小浜浄水場、川面浄水場の浸水対策工事を実施します。

工事場所	内容
小浜3丁目外	小浜浄水場浸水対策工事 着脱式止水板 川面浄水場浸水対策工事 着脱式止水板、スライド式止水板等

予算：資本的支出＞建設改良費＞原水及び浄水施設費



### ② 川下川ダム取水導水等関連施設点検業務（予算額16,000千円）

施設の経年劣化を測定するため定期点検を実施します。前回点検：平成19年(2007年)

工事場所	内容
玉瀬字イズリ ハ外地内	川下川ダム堤体、溪流取水口3ヶ所等 無圧トンネルL=1,870m (H=1.0m、 W=1.6m)

予算：収益的支出＞営業費用＞原水及び浄水費＞委託料



## (3) ダウンサイジングに関する取組

### ① 配水池統廃合事業（右岸地区）（予算額53,000千円）

維持管理費や施設更新費用の縮減を図るため、北畑加圧所、旭ヶ丘加圧所及び生瀬浄水場（ポンプ設備）を新北畑加圧所に統合するため、その詳細設計を行います。

工事場所	内容
野上4丁目	新北畑加圧所詳細設計 外

予算：資本的支出＞建設改良費＞送水及び配水施設費



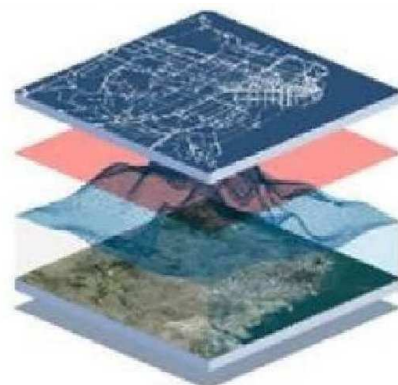
## (4) デジタル技術を活用した取組

### ① 水道管路劣化予測診断業務（予算額15,185千円）

管路更新・耐震化計画の補完としてAIによる管路劣化度調査を実施することにより、効率的かつ効果的に更新工事を行い、コストの縮減を図ります。

調査場所	内容
市内一円	AIによる管路劣化度調査 L=812km

予算：資本的支出＞建設改良費＞送水及び配水施設費



## 6. 管路等の耐震化の状況

### (1) 基幹管路の耐震化率（口径150mm以上の管路を対象）

導水管、送水管、配水管（口径150mm以上）のうち耐震性のある材質と継手（管の接続部）により構成された管路延長の割合です。道路管理者等との調整や現場状況により工事の進捗が遅れていますが、今後は、事業実施体制の強化を図り、管路更新・耐震化計画に基づいて着実に実施します。

（基幹管路延長 L = 348,039m）

	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末 (見込)	令和5年度末 (見込)
目標値 (%)	20.7	23.6	26.5	29.4	32.3
実績値 (%)	14.4	15.4	16.2	17.3	18.8

### (2) 管路耐震化率（全管路対象）

管路のうち、耐震性のある材質と継手（管の接続部）により構成された管路延長の割合です。道路管理者等との調整や現場状況により工事の進捗が遅れていますが、今後は、事業実施体制の強化を図り、管路更新計画に基づいて着実に実施します。

（全管路延長 L = 812,143m）

	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末 (見込)	令和5年度末 (見込)
目標値 (%)	11.3	12.6	13.8	15.1	16.3
実績値 (%)	10.4	11.1	12.1	12.8	13.6

### (3) 配水池の耐震化率

配水池のうち、耐震化がなされている施設の容量の割合です。容量の小さい配水池や加圧所の工事を実施していたため目標に達していませんが、今後は、容量の大きい配水池の工事を計画しています。

（配水池数 48カ所）

		令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末 (見込)	令和5年度末 (見込)
耐震化済箇所数（カ所）		11	12	12	13	15
耐震化率 (容量比)	目標値 (%)	52.2	52.2	52.2	55.5	59.7
	実績値 (%)	45.5	47.0	47.0	49.1	55.5

### (4) 加圧所の耐震化率

加圧所のうち、耐震化がなされている施設能力の割合。予定していた耐震工事や更新工事を行い、耐震化率は向上しています。今後も引き続き事業を着実に実施します。

（加圧所数 30カ所）

		令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末 (見込)	令和5年度末 (見込)
耐震化済箇所数（カ所）		11	12	12	13	13
耐震化率 (能力比)	目標値 (%)	24.1	25.6	25.6	25.6	26.7
	実績値 (%)	19.1	28.9	28.9	32.8	32.8

※ 目標値は水道事業経営戦略に掲げた数値です。



## 7. 主な経営数値

### (1) 経常収支比率

経常費用が経常収益によってどの程度まかなえているかを示す指標です。100%で経常費用と経常収益が均衡、100%未満では損失が発生しています。全国平均は111.4%、類似団体平均は112.3%（令和3年度）です。これらに比べると本市の数値は低く、どの年度も100%を下回っており、安定した経営を実現できているとは言えない現状です。この問題等について、令和3年11月から、上下水道事業審議会で審議していただいています。

	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末 (見込)	令和5年度末 (見込)
経常収支比率 (%)	95.3	93.4	92.3	90.2	90.0

### (2) 純利益及び未処分利益剰余金

未処分利益剰余金は毎年度の純利益の累積額です。令和5年度は未処分利益剰余金がマイナスとなり、欠損金となる見込みです。水道事業経営戦略中間見直しでは、令和7年度に欠損金が生じる予測でしたが、電気料金の高騰による動力費の増加や湧水による受水費の増加等により2年早まる見込みとなっています。

	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末 (見込)	令和5年度末 (見込)
当年度純利益 (千円)	△974,361	△290,930	△333,692	△477,115	△486,358
未処分利益剰余金 (千円)	1,462,269	1,171,338	837,646	360,531	△125,827

### (3) 年度末資金残高

現金預金残高としては、令和5年度に前年度比で大きく減少していますが、大口定期による資金運用として5億円の支出、下水道事業への他会計貸付金として5億円の支出があるためです。

	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末 (見込)	令和5年度末 (見込)
現金預金残高 (千円)	3,778,605	4,030,269	3,541,313	2,512,910	884,547
大口定期等 (千円)	800,000	300,000	0	500,000	1,000,000
他会計貸付金 (千円)	620,000	920,000	1,220,000	1,270,000	1,770,000
合計 (千円)	5,198,605	5,250,269	4,761,313	4,282,910	3,654,547

### (4) 給水原価及び供給単価

給水原価は1m<sup>3</sup>の水道水を作るのに要する費用、供給単価は1m<sup>3</sup>あたりの平均収益です。すべての年度で給水原価が供給単価を上回っています。

	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末 (見込)	令和5年度末 (見込)
給水原価 (円)	175.3	165.2	179.5	187.1	188.3
供給単価 (円)	152.3	131.0	150.5	138.7	151.0
差引 (円)	△23.0	△34.2	△29.0	△48.4	△37.3

## 8. 職員の内訳

平成29年度（実績人数）から令和5年度（予算措置人数）までの職員数の推移は以下のとおりです。平成29年度に92人いた職員は平成31年度に84人まで削減しましたが、その後1名増員して、令和5年度は85人の予算を計上しています。

(人)

平成29年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	10	29	32	71
	再任用職員	2	12	5	19
	嘱託職員	1	1	0	2
	合計	13	42	37	92

平成30年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	10	32	32	74
	再任用職員	0	11	3	14
	嘱託職員	1	0	0	1
	合計	11	43	35	89

平成31年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	11	34	29	74
	再任用職員	0	8	1	9
	嘱託職員	1	0	0	1
	合計	12	42	30	84

令和2年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	12	34	28	74
	再任用職員	0	8	2	10
	会計年度任用職員/月額	1	0	0	1
	合計	13	42	30	85

令和3年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	13	38	27	78
	再任用職員	0	3	3	6
	会計年度任用職員/月額	1	0	0	1
	合計	14	41	30	85

令和4年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	13	38	28	79
	再任用職員	0	3	2	5
	会計年度任用職員/月額	1	0	0	1
	合計	14	41	30	85

令和5年度 予算		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	13	38	28	79
	再任用職員	0	3	2	5
	会計年度任用職員/月額	1	0	0	1
	合計	14	41	30	85

※ 平成29年度から令和4年度までは実績人数、令和5年度は予算措置人数別に各年度とも管理者1名あり